

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年12月1日(2011.12.1)

【公開番号】特開2008-104879(P2008-104879A)

【公開日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【年通号数】公開・登録公報2008-018

【出願番号】特願2007-274558(P2007-274558)

【国際特許分類】

A 6 1 B 6/10 (2006.01)

A 6 1 B 6/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/10 3 5 5

A 6 1 B 6/00 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年10月18日(2010.10.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

このような環境では、X線照射に応答して発生された信号音を室内の他の雑音から区別することは困難なことがある。X線システムが使用される室内の雑音の種類及び強度に依存して、X線システムの照射に関係する特定の信号音は区別するのが困難なことがある。信号音のボリュームは室内の他の雑音よりも十分に大きいボリュームに変えることができるけれども、ユーザが、例えば眠っている患者の中に呼吸管が適切に位置決めされたのか判定するためにX線撮影する場合のような全ての状況でボリュームを非常に高くすることを欲しないことがある。X線システムのオペレータが照射が生じたことを了解していない場合、オペレータは検査を再度行うことを決定することがあり、これは期待通りではない画像を生じさせる可能性がある。

【特許文献 1】米国特許第 7 2 3 9 6 8 5 号明細書